

株式会社ヘルスケアシステムズと UMF 蜂蜜協会は、全世界におけるマヌカ蜂蜜の規格基準に関して、マヌカ蜂蜜特有の新規物質“Leptosperin (レプトスペリン)”のライセンス提供および包括的業務提携を締結いたしました。

2015年3月17日

株式会社ヘルスケアシステムズ（本社：愛知県名古屋市、代表取締役：瀧本陽介）と UMF 蜂蜜協会（本部：ニュージーランド・オークランド市、Chairperson：PETER LUXTON）は、全世界におけるマヌカ蜂蜜の規格基準に関して、マヌカ蜂蜜特有の新規成分“レプトスペリン（Leptosperin）”のライセンス提供および包括的業務提携を締結いたしました。

マヌカ蜂蜜は、ニュージーランド特産のマヌカの花から得られる蜂蜜で、高い抗菌活性が知られています。抗菌活性や抗菌物質の定量により規格化されていますが、認証方法が複数あり、中には科学的に信頼性の低い規格があることが問題となっています。

またマヌカ蜂蜜は、ニュージーランドから日本を含めて全世界に輸出されていますが、実際には様々な純度のものが「マヌカ蜂蜜」として販売されています。加えて、抗菌活性の高いものほど高価であることから、抗菌活性を人為的に増加させるために過度の加熱処理が疑われる例もあり、希少性が高いことから、ラベル偽装のほか、偽物やシロップを混ぜたマヌカ蜂蜜が多く出回っています。ニュージーランドにおける生産量 1700 トンに対し、世界の販売量は 1 万トンを超えており、偽物かどうかを判別する検査方法の開発が課題となっていました。

レプトスペリンは、マヌカ蜂蜜に特異的に含まれ、ほかの蜂蜜には存在しない新規成分です。2012年に、兵庫県立大学環境人間学部の加藤陽二教授（弊社・技術アドバイザー）がマヌカ蜂蜜から発見し、新規物質として同定しました。これまでの研究結果から、レプトスペリンの量はマヌカの純度を示しているのではないかと考えられること、レプトスペリンは熱に比較的安定であることから、規格基準指標として有望と考えています。加藤教授と弊社は共同でイムノクロマトキットによる簡便な検出定量法の開発にも成功しています。

株式会社ヘルスケアシステムズ：名古屋大学農学部発の大学ベンチャーとして 2009 年に設立。健康と機能性食品に関連した検査マーカーと検査手法の研究開発・受託分析を行っています。

UMF 協会 (Unique Manuka Factor Honey Association)：UMF 協会が策定したマヌカ蜂蜜の規格基準「UMF 値」は 50 社以上の蜂蜜メーカーで使用され、約 20 年にわたってマヌカ蜂蜜の保証と消費者保護を行っています。